

# 「秋田大学みらい創造基金学生海外派遣支援事業」帰国報告書

記入日： 2023年 1月 11日

所属：教育文化学部 地域文化学科国際文化コース 4年

氏名：齊藤萌加

派遣先大学名（国）ハンバット大学（韓国）

在籍身分：交換留学生

派遣期間：10か月

渡航年月日：2022年2月23日

帰国年月日：2022年12月21日

## ○派遣先大学における授業等の履修状況

1学期（3月～6月）

	月	火	水	木	金
9:00~9:50					
10:00~10:50	実務日本語				
11:00~11:50					
12:00~12:50					
13:00~13:50					
14:00~14:50	キャプスト ンデザイン	学業韓国語	プロジェクト韓国語		メディア韓 国語
15:00~15:50					
16:00~16:50					

2学期（9月～12月）

	月	火	水	木	金
9:00~9:50					
10:00~10:50					
11:00~11:50					
12:00~12:50					
13:00~13:50					
14:00~14:50	キャプスト ンデザイン	韓国の祭り と演行コン テンツ			
15:00~15:50					
16:00~16:50					

## ○研究・学習概要及び今後の勉学計画

今回の留学では第一に「韓国語能力の向上」を目的として、留学生向けに開講されている韓国語の授業を受講しました。学業韓国語・プロジェクト韓国語・メディア韓国語がそれにあたります。授業内容としては、テキストはもちろんドラマや詩を通して韓国語を学んだり、作文や討論、プレゼンテーション発表などを通して実践的に韓国語を学んだりしました。さらには授業で1つの映画作品を受講生と一緒に作る中で、セリフを覚えながら韓国語を学習するという新鮮な学びを通して韓国語の能力を向上させることができました。韓国語能力の向上は、自身の卒業研究に大きく役立てることができました。今回の留学目的の1つとして卒業研究の情報収集もありました。卒業論文では、韓国の「抗議活動」を題材として研究を進めていましたが、留学中にはたくさんの情報を集めることができました。特に2学期には卒業研究に関するインタビューを実施することを目標としていましたが、それを大きく達成することができ、充実した内容を聞き取ることができました。韓国語での授業が聞き取りや会話の部分で大きく役立ったと感じています。

また、今回の留学では「地域について学ぶ」というテーマもありました。受講したキャプストーンデザイン・韓国の祭りと演行コンテンツがそれにあたります。秋田大学で私は地域文化学科に所属していますが、4年間を通して地域の文化や地域の現状を日本全体や海外も視野に入れて多角的に把握しつつ、解決策を模索する力を身に付けていきます。こうした点でハンバット大学での学びは、こうした力を十分に得ることができたと感じています。日本と韓国の文化を比較したり、韓国各地で行われている祭りを学んだうえで自らが考える祭りを企画したりすることを通して、「グローバル」と「ローカル」の視点から地域を理解し、その課題解決のための知識や考え方を実践的に身に付けることができたと思います。

## ○生活面について

留学生活中は、ハンバット大学にある学生寮で生活していました。寮は2人で1部屋を共有して利用しました。1学期はコロナの関係で留学生が少なく、1人で寮の部屋を利用していましたが、2学期にはイギリスから来た交換留学生と生活しました。異なる文化背景を持つそれぞれには言語の壁もありましたが、ルームメイトとの生活は自身にとってまたとない貴重な経験となりました。学生寮では1日3食学食を提供してくれる食堂や、勉強施設やジムがあるなど、特に不自由なことなく生活できました。

留学中の身分としては、ハンバット大学の日本語学科に在籍していました。様々な学科の行事に参加する中で、たくさんの日本語科の学生と交流をすることができました。学科サークルの1つである日本での就職を目標にして就職活動の準備を行うサークルに参加したり、日本語に関連する演劇やコント、ダンスを披露する学術祭、2泊1日の日程でゲームやお酒を通して日本語学科の先生方や学生と仲を深める短期合宿「MT」に

参加したりしました。こうした活動を通して様々な現地の学生と交友関係を広げ、韓国の学生生活になじむことができただけでなく、自分がこれまで知らなかった世界を知るきっかけとなりました。

### ○その他留学全般にわたる感想

今回の留学では、自分自身を一回りも二回りも成長させることができたと感じています。特に自分の成長を感じる点ができた点は2つの面です。1つ目は「韓国語能力」です。自身は今回の留学で、韓国語の検定試験である「韓国語能力検定」の中でも最も級の高い6級の取得を目指していました。目標達成のために授業はもちろん、外部で授業を受けたり、日常では積極的に韓国語での会話をしたりするなど心がけました。その結果、留学終了前に念願の6級を取得することができ、満足しています。

また今回の留学では、「やり遂げる力」を身に着けることができたと感じています。実は昨今のコロナウイルスの影響で、大学2年の後学期から1年間予定していた留学ができないまま、3年生の冬が終わりを迎えるようとしていました。正直、最終学年の4年生では就職活動や卒業論文のことなどやるべきことがたくさんあり、留学を最後までやりきることができるかが不安でもありました。それでも、かねてより目標としていた留学という選択肢を曲げずに韓国にやってきました。留学先で授業を受けながら、秋田大学の卒業論文に関するゼミを受け、一方では就職活動をオンラインで進めました。こうした毎日に余裕がなくなることも時にはありましたが、最終的にはすべてを満足する形で終わらせることができました。留学を通して精神面で強くなれたことを実感するだけでなく、語学力や異文化理解について学ぶことだけでは収まらない、留学の意義というものを知ることができたと思います。留学という選択を最後の最後まで諦めずにやり遂げたことは、自分の糧になっていると改めて実感しています。



▲韓国語の授業でプレゼンテーション発表をしている様子（本人）



▲卒業研究の一環として訪れた光州広域市の5.18記念公園

### ○渡航費補助について

今回の留学では渡航補助という形で支援をいただいたおかげで、大変充実した留学生活を送ることができました。皆様の手厚いご支援や応援が留學生活の原動力となり、今回の留学を悔いなく終えることができました。留学での経験は、卒業後に待っている社会人生活でもきっと自らの大きな財産として役に立つはずでず。そしていつの日か地域、日本を支える人材として成長することで、恩返ししていきたいと思ひます。改めて、秋田大学みらい創造基金に寄付していただいた皆様に感謝申し上げます。